

井上定期会設立 100年

井上定期能

百周年

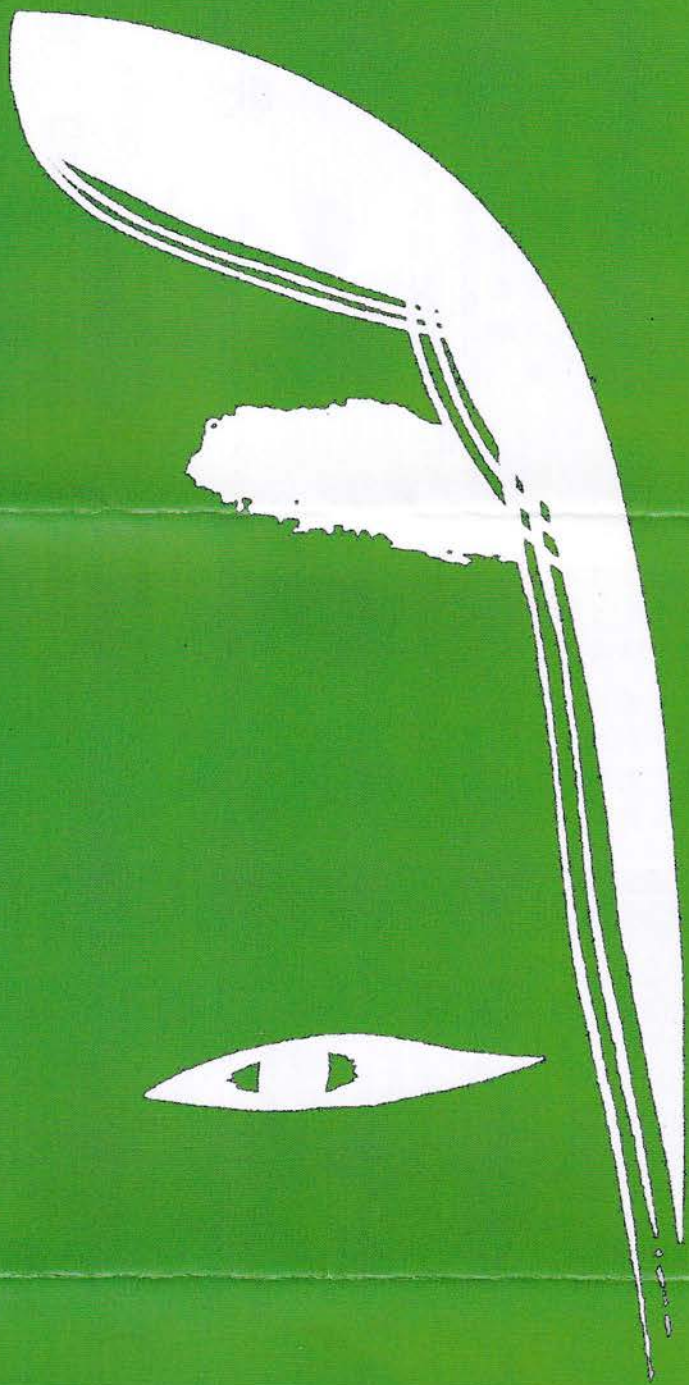
4月公演

京都

令和7年4月26日(土)
午後12時45分開演(12時開場)

於京都観世会館

能	狂言	能
張	土	老
良	筆	松
井上裕久	茂山七五三	橋本雅夫



井上定期会設立百年
井上定期能 四月公演
令和七年四月二十六日(土)
午後十二時四十五分開演
於・京都観世会館

神歌

一時
素謡
井上裕久
井上裕之真
浦部幸裕
橋本擴三郎
吉田潔司
吉浪壽晃

男 橋本充基
尉 橋本雅夫
老松ノ精

老松

梅津何某 江崎欽次朗
從者 大坪賢明
從者 松本義昭
島田洋海
大鼓 谷口正壽 大鼓 前川光長
小鼓 林吉兵衛 笛 森田保美

土筆

遊山人 茂山七五三
後見 茂山虎真
狂言
井上裕之真
吉田潔司
吉田和史
味方團
寺澤拓海
吉浪壽晃
松井美樹
橋本光史
浦部幸裕
寺澤幸祐

籠 東 簾
小西 行 北
鍛 冶 桜
治 キリ
能
寺澤幸祐
吉田潔司
杉浦豊彦
吉田和史

張良

龍神 井上裕之真
老翁 井上裕久
黃石公
張良 有松遼一
張良ノ下人 井口竜也
大鼓 河村 大太鼓 井上敬介
小鼓 吉阪 一 笛 森田保美

附祝言

橋本擴三郎
橋本充基
寺澤幸祐
吉田篤史
味方團
吉田和史
浦部幸裕
寺澤幸祐
吉浪壽晃

會場二階にて鑑賞入門の爲の面・装束の展示を行いますので是非ご覧ください。
主催 井上定期会

【素謡】 神歌（かみうた）
能の謡部分を囃子や狂言をいれずに、紋付・袴にて正座して謡う演出を「素謡」と言い、能「翁」を素謡で演じる節には「神歌」と称する。
「翁は能にして能にあらず」といわれ、他の曲とは別格に扱われ、神聖視される。それは、演劇としての能というより、天下泰平、国土安穩、五穀豊穡を祈る儀式であり、まさに神事である。
井上定期会設立百周年に当たる本年、当主による「神歌」から千秋万歳を祈る。

【能】 老松（おいらまつ）
所は九州筑紫の安楽寺。老松の精が松と梅のめでたさをたたえ、静かな舞を舞う。
都に住む梅津何某（江崎欽次朗）は、從者を伴い、靈夢を頼りに梅薫る早春の筑紫・安楽寺を訪れる。そこへ老人（橋本雅夫）と若い男（橋本充基）が現われ、梅津の間に紅梅殿と老松のめでたい謂われをもの語り立ち去る。続いて安楽寺門前の者（島田洋海）が、一行の求めに応じて、飛梅と老松について語って聞かせる。やがて静かな夜ふけに、老松の精（橋本雅夫）が現われて舞を奏でてめでたい春をこほく。

後シテの老松の精は老神の姿で登場し、「いかに紅梅殿・・・」と呼びかける設定から、当初は後場に紅梅殿（後ツレ）が登場して舞を舞う演出が行なわれていたと考えられるが、現代その演出は、小書（特殊演出）「紅梅殿」として定着している。なお本曲は、菅原道真の飛梅伝説を扱いつつ、道具その人についてはほとんど触れていない。
【狂言】 土筆（つづくし）
春の河原に出掛けた二人の男（茂山七五三）（茂山宗彦）は土筆（つづくし）を見付け歌争いをしますが…

【能】 張良（ちやうりやう）
漢の臣下、張良が黄石公の課す試練に立ち向かい、石公から兵法の伝授を受ける。
張良（有松遼一）が夢の中で馬上の老人に香を履かせ、老人は五日後の再会と兵法伝授を約束する。約束の日に張良が指定の場所へ行くと、既に来ていた老人（井上裕久）は張良の遅参を怒り、さらに五日後を約して立ち去る。
約束の日、張良が夜ふけから待つところへ、馬に鞭打ちつつ黄石公（井上裕久）が現われ、いまだ一度張良の心を試すべく、履いた香を川に落とす。張良は川に飛び込み急流にもまれながら香を追う。そこへ龍神（井上裕之真）が現われ香を拾うが、張良が叙を抜いて追ると、龍神は香を差し出し、張良は香を石公に履かせ、兵法を伝える巻物を授かる。
【前漢書】「史記」などによるものと考えられ、本曲の主役はワキ張良でありワキ方において特に重く扱われている演目である。

次回 令和七年七月十九日(土)
午後十二時四十五分開演
於 京都観世会館

能 高砂 井上裕之真
能 俊寛 橋本光史

《観能券》
五枚綴券 17500円
前売券 3800円
当日券 4500円
学生券 2000円

《取り扱い》
各出演者
京都観世会館

お客様へのお断り
○都合により出演者に変更がある場合がございます。
○あらかじめご了承ください。
○お客様の都合による払い戻しはできません。
○全館自由席です。
○上演中のお出入りはなるべく遠慮ください。
○場内での私語・飲食・撮影・録音は遠慮ください。
○場内では携帯電話の呼び出し音をお切りください。

京都観世会館 TEL 075-771-6114 WEB kyoto-kanze.jp
〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町 44

